

三尖弁閉鎖

三尖弁閉鎖とは？

右房と右室の間にある三尖弁がなく閉鎖している病気で、通常、右室の形成は不十分です。右房の静脈血は、心房中隔の孔を通り左房・左室に流入し、病型により心室中隔欠損や動脈管開存を介して大動脈に駆出されるため、チアノーゼを生じます。

どのような症状が起きますか

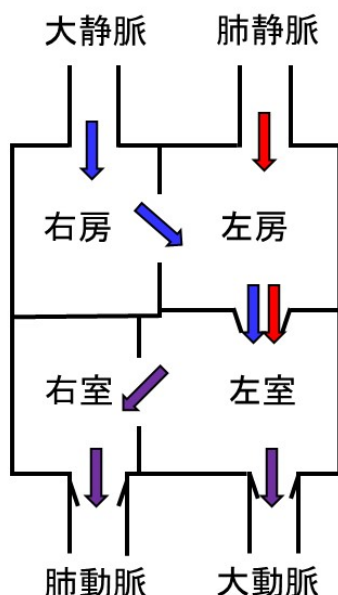
生後すぐにチアノーゼが認められ、特に肺動脈閉鎖・重度狭窄のある例では著明です。肺動脈狭窄のない例では、チアノーゼが軽く、哺乳不良・多呼吸など心不全の症状を呈します。ショックで発症したり、突然チアノーゼが増悪する無酸素発作を起こしたりすることもあります。

どのように診断しますか

胸部レントゲン写真は様々なパターンを示し、心電図では左軸偏位と呼ばれる異常を認めます。心エコー検査で確定診断でき、三尖弁閉鎖の病型分類も可能です。手術の前後には、心臓カテーテル検査も必要になります。

どのように治療しますか

肺動脈閉鎖・重度狭窄のある例では、まず動脈管を開くプロスタグランジンを投与し、新生児期に短絡手術（通常は鎖骨下動脈と肺動脈をつなぐシャント手術）を行います。肺動脈狭窄のない例では、利尿薬などを投与し、肺動脈を狭める絞扼術を行うこともあります。次いで、両方向性グレン（Glenn）手術を経て、段階的にフォンタン（Fontan）手術をめざします。



三浦 大：三尖弁閉鎖。

三浦 大 編. はじめて学ぶ小児循環器。

P 75, 診断と治療社, 2015. より改変して引用。